

流域治水プロジェクト2.0

～流域治水の加速化・深化～



- 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
- 現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

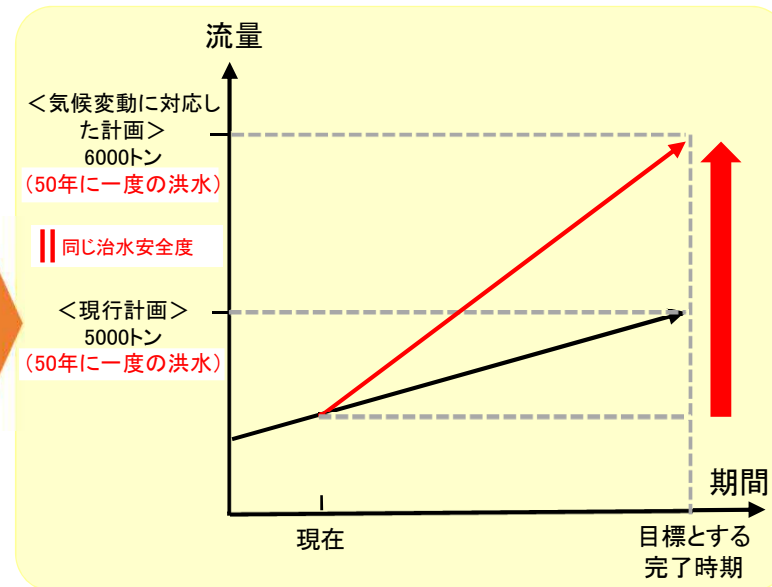
必要な対応のイメージ

気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇	約1.1倍

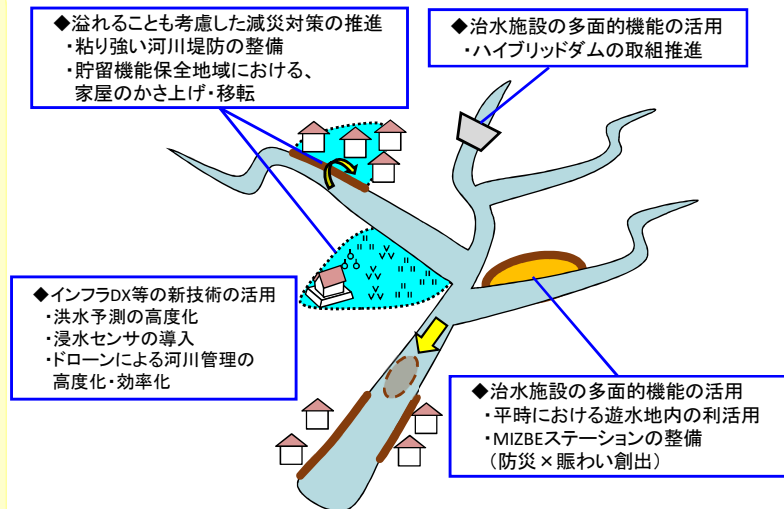
降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量
	約1.2倍

同じ治水安全度を確保するためには、
目標流量を1.2倍に引き上げる必要



様々な手法の活用イメージ



※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、
様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

⇒現在の河川整備計画に基づく対策や流域における各取組を推進するとともに、気候変動を踏まえて追加で必要となる対策案の詳細については、更に議論を深めていく。

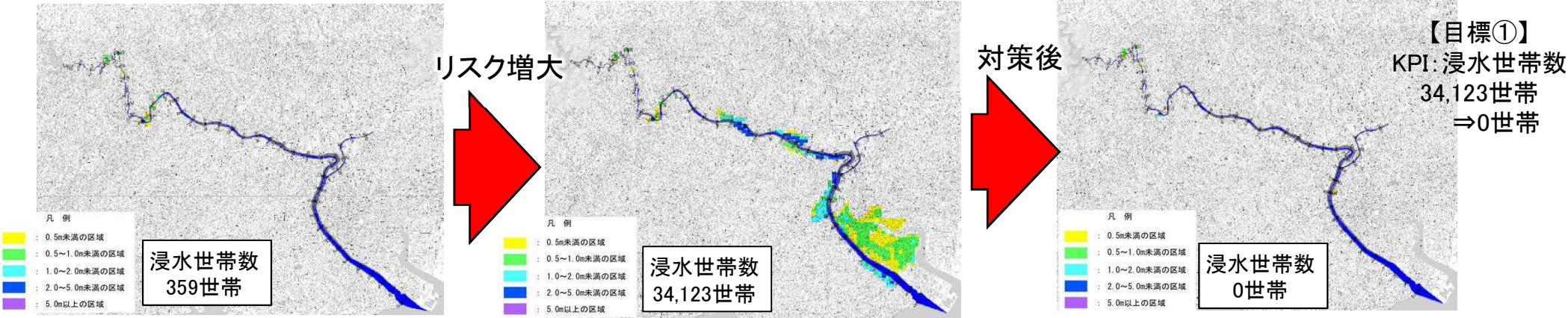
気候変動に伴う水害リスクの増大



○戦後最大流量を記録した平成30年7月洪水と同規模洪水(昭和20年9月洪水等に対し、2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水)が発生し、芦田川が氾濫した場合、芦田川流域で浸水世帯数が約34,100世帯(昭和20年9月洪水同規模の約95倍)になると想定され、事業の実施により、浸水被害が解消される。

■気候変動に伴う外水による水害リスクの増大

・浸水図面は芦田川水系(大臣管理区間)のみを表示している。



<昭和20年9月洪水と同規模>

※仮に芦田川が氾濫したことを想定。
※気候変更考慮前

<平成30年7月洪水と同規模>

昭和20年9月洪水の1.1倍
※仮に芦田川が氾濫したことを想定。
※気候変更考慮後

<対策後>

※気候変更考慮後

平成30年7月洪水(福山市域における浸水被害)に対しては、令和5年度までに、国・県・市による172事業を実施し、概ね対策が完了している。

■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標①】戦後最大洪水である平成30年7月豪雨等に対する安全の確保

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
・ 氾濫を防ぐ ・ 被害を減らす	福山河川国道事務所	約34,100世帯の浸水被害を解消	河道掘削: 約170万m ³ <気候変動前の約14倍>	概ね30年
を被害対象	福山市、府中市	安全なまちづくり	立地適正化計画における防災指針の作成(福山市) 防災・減災のための住まい方や土地利用の推進	継続実施
早期被害の軽減・復興	福山市、府中市、世羅町、広島県、福山河川国道事務所等	命を守る避難行動	マイタイムラインの作成支援等	継続実施
	福山河川国道事務所	水害リスク情報の充実	水害リスクデジタルマップの拡充・オープンデータ化(DX)	概ね5年

【目標②】内水被害の軽減(平成30年7月豪雨の雨水出水による浸水被害を防止)

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
・ 氾濫を防ぐ ・ 被害を減らす	福山市	内水の排除	内水排除対策(排水機場整備等) 雨水貯留量: 約131,000m ³ <気候変動前の約12倍> 雨水排水量: 約9m ³ /s	継続実施
を被害対象	福山市、府中市	安全なまちづくり	立地適正化計画における防災指針の作成(福山市) 防災・減災のための住まい方や土地利用の推進	継続実施
早期被害の軽減・復興	福山市、府中市、世羅町、広島県、福山河川国道事務所等	命を守る避難行動	マイタイムラインの作成支援等	継続実施
	福山河川国道事務所	水害リスク情報の充実	水害リスクデジタルマップの拡充・オープンデータ化(DX)	概ね5年

○ 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したこと等を踏まえ、芦田川水系においても以下の取り組みを一層推進していくものとします。更に大臣管理区間においては、将来の気候変動による降雨量の増大及び再度災害防止の観点等を考慮し、戦後最大洪水である平成30年7月豪雨と同規模の洪水（昭和20年9月洪水等に対し、2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水）が流下する場合においても、家屋浸水を防止し、流域における浸水被害の軽減を図るとともに、多自然川づくりを推進します。あわせて、迅速かつ適切な情報収集・提供体制を構築し、ホットラインを含めた確実な避難行動に資する情報発信などの取り組みを実施し「逃げ遅れゼロ」を目指します。

○ 芦田川は、一度氾濫が起これば、下流低平地に広範囲に浸水被害が広がりかつ長期化する特性を有しており、平成30年7月豪雨においても広範囲に浸水被害が発生したことを踏まえ、洪水時の水位を下げる河道掘削や内水被害を軽減する排水機能増強などの事前防災対策を進めていますが、気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化という新たな課題や、流域の土地利用の変遷に伴う保水・遊水地域の減少等を踏まえ、将来に渡って安全な流域を実現するため、特定都市河川浸水被害対策法の指定に関する検討を含め、更なる治水対策を推進します。



氾濫を防ぐ・減らす	被害対象を減らす	被害の軽減・早期復旧・復興
○気候変動を踏まえた治水計画への見直し (2℃上昇下でも目標安全度維持) ＜具体の取組＞ ・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくハード対策 ○流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進 ＜具体の取組＞ ・河道掘削、堤防整備、橋梁架替、浸透対策、排水機場整備 等 ・砂防堰堤等の整備 ・普通河川の河道掘削 ・ため池を活用した雨水貯留施設整備 ・水路改修・浚渫 ・雨水管渠整備 ・雨水の流出抑制に関する検討 ○あらゆる治水対策の総動員 ＜具体の取組＞ ・森林整備、治山施設整備、農地等の保全 ・洪水調節機能増強の調査・検討 ・特定都市河川の指定に向けた検討 ○既存ストックの徹底活用 ＜具体の取組＞ ・利水ダム等11ダムにおける事前放流等の実施・体制構築 (関係者:国、広島県、福山市、府中市、世羅町など) ・改修又は廃止する農業用ため池について活用を推進	○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞ ・立地適正化計画における防災指針の作成(福山市) ・防災・減災のための住まい方や土地利用の推進 ・止水板の設置補助	○気候変動を踏まえた治水計画への見直し (2℃上昇下でも目標安全度維持) ＜具体の取組＞ ・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくソフト対策 ○流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進 ＜具体の取組＞ ・浸水想定区域図、ハザードマップ等の作成・周知等 ・タイムラインの作成、周知等 ・防災教育や防災知識の普及 ・より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化 ・避難行動、水防活動、排水活動に資する水防資機材の配備 ・排水計画(案)の作成および排水訓練の実施 ・基準水位の見直し ・堤防における浸透・浸食に関する重点監視 ・防災ステーションの整備 ○多面的機能を活用した治水対策の推進 ＜具体の取組＞ ・まちづくりとの連携(防災拠点の整備) ・MIZBEステーション(防災×賑わい創出)の調査・検討 ○既存ストックの徹底活用 ＜具体の取組＞ ・ダムの効果的・効率的な運用 ○インフラDX等における新技術の活用 ＜具体の取組＞ ・洪水予測の高度化 ・河川管理施設の自動化・遠隔化(DX) ・デジタル技術を活用した災害リスクの可視化(DX) ・三次元河川管内図の整備(DX) ・BIM/CIM適用による三次元モデルの積極的な活用(DX) ・水害リスクデジタルマップの拡充・オープンデータ化(DX) ・マイタイムラインの作成支援 ・要配慮者利用施設の避難確保計画の作成 ・民間企業におけるBCP作成支援

※ 上記の他、特定都市河川の指定に向けた検討を実施し、上記対策を推進。

グリーンインフラ
 自然と共に創る社会インフラ

○ 芦田川は備前地方の中心に位置し、豊かな自然環境と悠久の歴史を有する河川であり、中流から上流では瀬と淵が見られ、魚類等の良好な生息・生育・繁殖環境となっているほか、下流では広大な水面の広がる河口堰貯水池や干潟など特徴ある景観を有するなど、次世代へ引き継ぐべき豊かな自然環境が多く存在しています。

○ 芦田川水系では、河道掘削、堰改築等にあたり、清浄で多様な生物がみられるような川らしい自然環境の保全・再生を目指し、今後概ね30年間で淵や河畔林の保全、浅場環境や多様な水際環境の創出、魚類の遡上・降下環境の改善を行うなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進します。



芦田川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】



～備後地域の産業と暮らしを守る流域治水対策の推進～

- 芦田川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
平成30年7月豪雨では、福山・府中市域において内水による浸水被害が先行して発生していることから
- 【短期・中期】 福山市街地等での浸水被害を防ぐため、下流部の河道掘削、排水機場の整備、雨水貯留施設の整備、浸水対策補助制度の検討・創設や防災ステーションの整備等を実施し、あわせて、逃げ遅れゼロを目指した、避難計画策定・ハザードマップ改訂周知・関係機関との実践的な訓練・排水計画の策定などソフト対策を継続的に実施する。
- 【中 長 期】 芦田川の中流部及び上流部の浸水被害を防ぐため、河道掘削、浸水対策補助制度の検討・創設や防災ステーションの整備等を実施し、流域全体の安全度向上を図る。

区分	対策内容	事業主体	対策工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策			草戸水呑地区 河道掘削		
	福山市街地等での浸水被害を防ぐため、下流部の河道掘削	国交省 広島県	草戸・水呑地区		
	芦田川の中流部及び上流部の浸水被害を防ぐため、河道掘削及び支川の河道拡幅、護岸整備、排水機場整備		福川・天王前川排水機場	土生・目崎・父石地区	
			西谷川・加茂川・福川・吉野川	御幸・郷分・駅家地区 新市・芦田地区 中須地区	
			神谷川・瀬戸川・有地川・御調川・服部川		
			ポンプ増設 分解整備、更新等	ポンプ場増設等	
	内水被害を軽減させるため排水機能の向上	福山市 府中市	大橋、御幸、小山、川南、 掛上樋門、戸手、小森・谷尻、佐波ほか	森脇、千田、津之郷、一ツ樋、中央ほか	
	ため池を活用した雨水貯留施設等整備	福山市	珠池、豊田池、丙里池 平田池、正藤池ほか		
砂防堰堤等の整備による土砂流出対策	広島県	砂防堰堤等の整備			
森林整備、治山施設整備による雨水の流出抑制	林野庁 広島県 森林整備センター	森林整備 治山施設整備			
被害対象を減少させるための対策	防災・減災のための住まい方や土地利用の推進	福山市 府中市	浸水対策補助制度の検討・創設		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策			危機管理水位計増設 避難計画等の策定	関係機関との実践的訓練など継続的な取組	
	広域避難を考慮したハザードマップの改訂周知等、タイムラインに基づく実践的訓練、防災教育や防災知識の普及	国交省 気象庁 広島県 福山市 府中市	広域避難計画の策定、 要配慮者利用施設の避難 確保計画の作成	要配慮者利用施設の避難確保計画に基づく訓練促進、 タイムラインに基づく実践的な訓練、防災リーダー研修、 マイタイムライン普及促進等	
	より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化、避難行動、水防活動、排水活動に資する水防資機材の配備		防災ステーションの整備・検討	防災ステーション整備	
	排水計画の作成および排水訓練の実施		関係機関が連携した水防訓練、水防団との連絡体制確保と伝送訓練、 洪水リスクの高い箇所の共同点検、水防活動を支援するための資機材等の配備等		
グリーンインフラの取組	詳細次ページ	詳細次ページ	詳細次ページ		

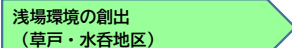
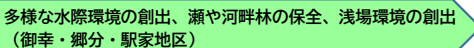
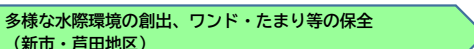
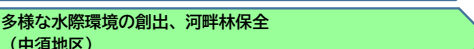
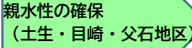
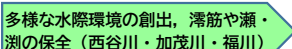
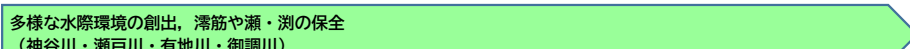
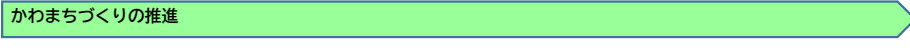
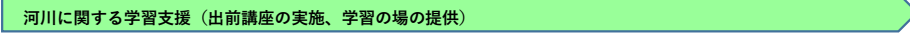
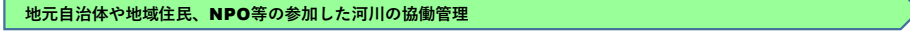
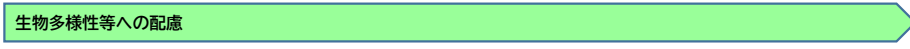
■事業規模

河川対策 約382億円
砂防対策 約290億円(他流域含む広島県全体、R3～7年度)
下水道対策 約165億円

気候変動を
踏まえた
更なる対策を推進

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

グリーンインフラの取組ロードマップ

区分	対策内容	事業主体	対策工程		
			短期	中期	中長期
グリーン インフラ の取組	・浅場環境の創出、多様な水際環境の創出、滞筋や瀬・淵・河畔林の保全、ワンド・たまり等の保全、親水性の確保	国交省 広島県		  	
	・魚がのぼりやすい川づくり		  		
	・かわまちづくりの推進	国交省 福山市			
	・河川に関する学習支援（出前講座の実施、学習の場の提供） ・地元自治体や地域住民、NPO等の参加した河川の協働管理	国交省 広島県 福山市 府中市 世羅町	  		
	・森林整備、治山対策における自然環境の保全	林野庁 広島県 森林整備センター			

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

芦田川水系流域治水プロジェクト【事業効果(国直轄区間)の見える化】

～備後地域の産業と暮らしを守る流域治水対策の推進～



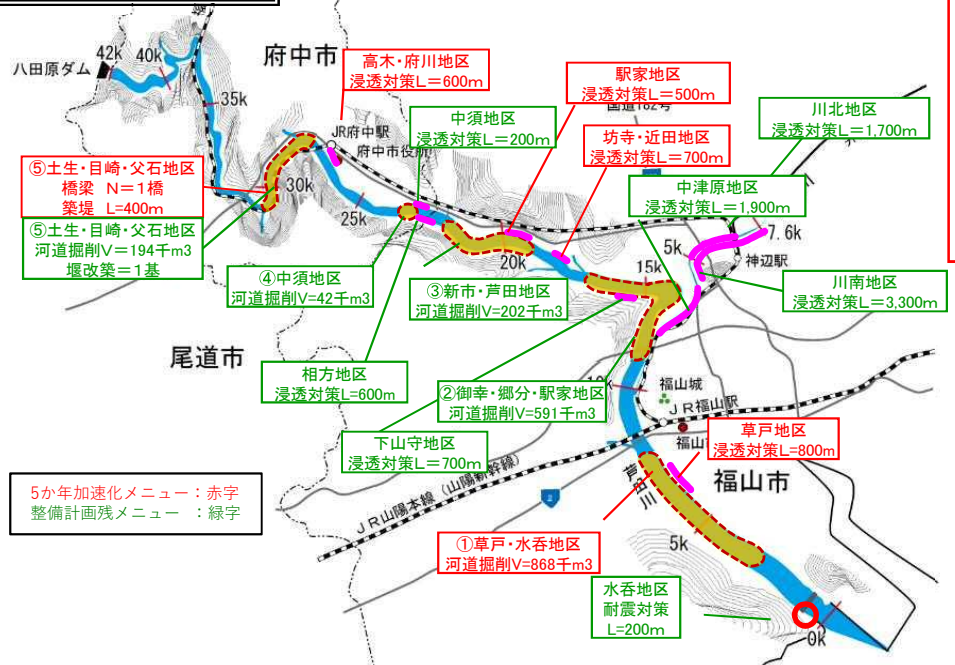
○草戸・水呑地区の河道掘削の短期整備完了に伴い、平成30年7月豪雨による洪水と同規模の洪水でも資産の集中する福山市街地で計画高水位以下で流下させることが可能となる。

整備効果

- ・国交省で実施する河川対策を抜き出し分析
(県による河川対策や市による流域対策は含まれていない)
- ・支川の対策や内水対策の効果は今後分析予定

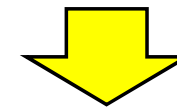
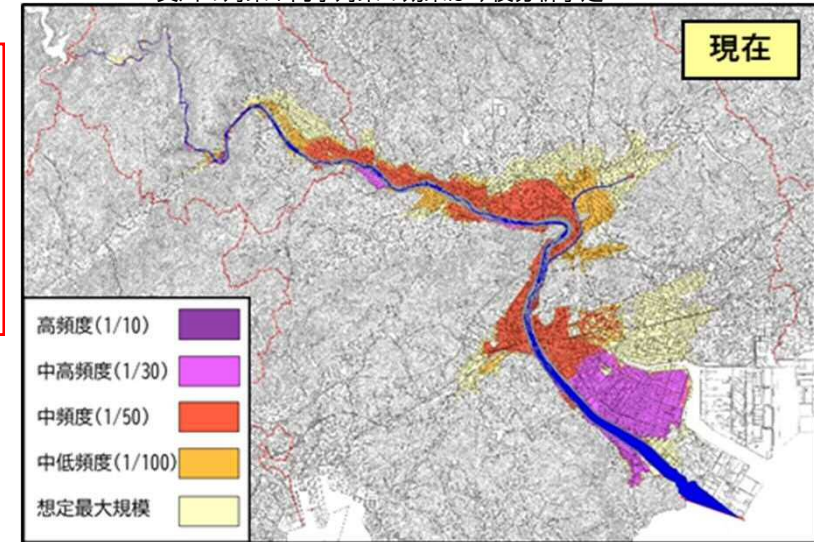
国交省短期整備（5カ年加速化対策）目標：河川整備率 約51% → 約65%

実施箇所・対策内容

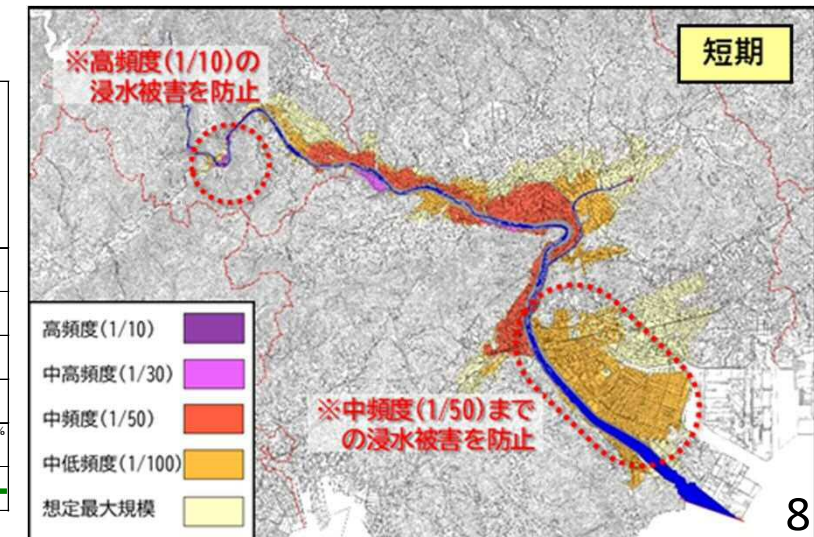


【短期整備完了時の進捗】

- ① 草戸・水呑地区 河道掘削 0% → 100%
- ⑤ 土生・目崎・父石地区 橋梁改築・築堤・堰改築・河道掘削 0% → 18%
- 浸透対策・耐震対策 0% → 24%



※芦田川・高屋川氾濫のみを想定したものであり、中小河川や下水等の内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる可能性がある。



実施工程		【5カ年加速化対策】			
区分	対策内容	区間	短期（R3年度～R7年年度） 下流部 概ね1/30→概ね1/60 R3	中期（R8年度～R15年度） 府中市街地より下流 概ね1/30→概ね1/60	中長期（R16年度～R32年年度） 府中市街地より下流 概ね1/30→概ね1/60 府中市街地より上流 概ね1/30→概ね1/60
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 (国交省に関する部分抜き出し記載)	芦田川の中流部及び上流部の浸水被害を防ぐため、河道掘削及び護岸整備、浸透対策等	①草戸・水呑地区		100%	
		②御幸・郷分・駅家地区		100%	
		③新市・芦田地区		100%	
		④中須地区		100%	
		⑤土生・目崎・父石地区	橋梁改築・築堤 18%		堰改築・河道掘削 100%
		浸透対策・耐震対策	24%		

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある

芦田川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取り組み】

～備後地域の産業と暮らしを守る流域治水対策の推進～



戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：約65%
（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



3市町村
（令和5年度末時点）

流出抑制対策の実施



4施設
（令和4年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 8箇所
（令和5年度実施分）
砂防関係施設の
整備数 3施設
（令和5年度完成分）
※施工中 6施設

立地適正化計画における
防災指針の作成



0市町村
（令和5年7月末時点）

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想定 79河川
区域
（令和5年9月末時点）
※一部、令和4年3月末時点
内水浸水想定 0団体
区域
（令和5年9月末時点）

高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保 洪水 972施設
計画 土砂 318施設
（令和5年9月末時点）
個別避難計画 3市町村
（令和5年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河道掘削（五入道川）（福山市）

有地川の支川の河道掘削を行い、流下能力を向上させる。

対策前

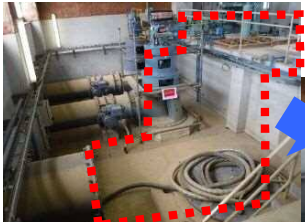


対策後



古市排水ポンプ場3号ポンプ増設（広島県）

H30.7豪雨において、浸水被害のあった福山市神辺町周辺の天王前川の増水に対応するため、ポンプ増設を行い、排水能力を向上。



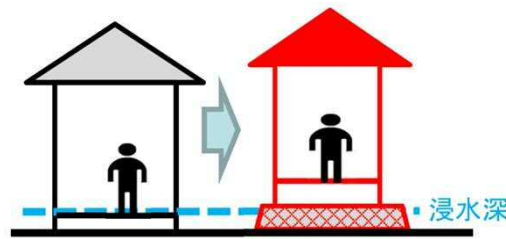
被害対象を減少させるための対策

止水板設置補助（福山市全域・府中市全域） 住宅嵩上げ補助（府中市・浸水実績のあった地域）

大雨による浸水被害を軽減するため、建築物内部に水が浸入することを防ぐ止水板の設置や住宅等の嵩上げ工事等を行う際に費用の一部を補助する制度を創設。



【止水板の設置例】



【嵩上げ工事のイメージ】

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

防災教育や防災知識の普及

命を守る率先した避難行動を促すための地区ごとのマイ・タイムライン作成の講習会や災害に対する心構えと避難に関する知識を養うための防災研修会を実施。

マイ・タイムライン作成講習会（府中市）



防災研修会（世羅町 伊尾・小谷地区）

